

BOSAI 4

いざという時、どう動く？

防災○×クイズ

「もしも」に備えた防災に関するクイズで、あなたの防災知識をチェック！

地震編

Q1

地震が起きて、まずとる行動は、頭を守ることである。

Q2

震度4の次に強い揺れは、震度5である。

Q3

海辺・水辺の近くで強い揺れを感じたら、無理に動かずその場で身の安全を守る。

Q4

津波は1回きたあとも、繰り返し襲来することがある。

答え

A1 とにかく頭を守ることが重要！



上から物が落ちてくる場合があるため、屋内にいる際に強い揺れを感じた場合は、テーブルの下に入ったり、クッションなどでとにかく頭を守りましょう。

A3 海辺・水辺からより遠く、より高いところへ避難を！



津波は川を遡上（そじょう）することがあるため、川の近くで強い揺れを感じた場合も、避難しましょう。

A2 震度5と6には弱と強がある。

同じ震度でも家具の転倒等の屋内被害や建物の倒壊等の被害の幅が大きいことから、適切な防災対応ができるように細分化されました。

A4 津波は繰り返し襲来することがある。

第2波、第3波が一番大きくなる場合もあるので、注意しましょう。第1波が過ぎた後も、水辺には近寄らないようにしましょう。

風水害編

Q5

大雨でひざまで水があふれている道を歩かなければならなくなった時に役立つのは長靴である。

Q6

避難グッズを入れた「非常時持ち出し袋」は玄関の近くなど、即座に持ち出せる場所に置く。

答え

A5 底の厚いスニーカーがよい！

長靴は中に水が入ると歩きにくくなります。傘や杖で歩く先の安全を確かめながら歩くことが重要です。



A6 出口に近い場所に置こう！

玄関の近くや車の中など、すぐに持ち出せる場所に保管し、保管場所は家族全員で把握しましょう。

あおり日和

Vol.5 大切なローリングストック



長谷川 ちひろさん (デザイナー・イラストレーター) 弘前市出身。高校卒業後上京。武蔵野美術大学卒業後、デザイン事務所などでエディトリアルデザイナーとして7年間勤務。結婚を機に、2018年青森へリターン。現在はフリーランスで活動中。

災害全般編

Q7

自宅で避難生活を送るためには、食料は最低1日分用意しておく。

Q8

避難情報と住民がとるべき行動を明確化するための「警戒レベル」。警戒レベル4は全員避難である。

Q9

災害時の情報収集先は、SNSが最も効果的である。

Q10

NTTの災害用伝言ダイヤルの番号は171である。

答え

A7 最低3日分は必要。

できれば1週間分は備蓄しておきましょう。成人1名あたり1日3ℓの水と2,000キロカロリーを目標に、缶詰、米、栄養補助食品などの準備を。また、薬を服用している方は薬の備蓄も重要です。



A9 公式ホームページからの情報収集を！

SNSを効果的に活用することは有効ですが、デマ情報もあるため、県や気象庁などの公式ホームページなどから情報収集をしましょう。



A8 警戒レベル4は「全員避難」！

警戒レベル3は高齢者等避難、警戒レベル4は全員避難です。警戒レベル5はすでに災害が発生している状況なので、自分の命を守る行動をとりましょう。

A10 通信各社の「災害用伝言ダイヤル」を活用しよう！

災害用伝言ダイヤルとは、災害発生時に地上通信回線が混雑している場合に提供される「声の伝言板」です。

BOSAI 5

ブックマークしておこう

災害時に役立つサイト

「もしも」のときにすぐにチェックできるようにしておこう！



青森県庁ホームページ <https://www.pref.aomori.lg.jp/>



青森県防災ホームページ <http://www.bousai.pref.aomori.jp/>



青森地方気象台 <https://www.jma-net.go.jp/aomori/>



青森県河川砂防情報提供システム <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/>



防災ハンドブック「あおりおまもり手帳」

こちらも一緒に確認！



P2~4に掲載している情報は令和3年1月現在の情報です。問い合わせ先/防災危機管理課 ☎017-734-9089